資料－１

第２回　東北地方におけるコンクリート構造物の耐久性向上検討委員会
開　催　報　告

○ 検討会の開催概要

日　時：平成２０年３月１９日（水）１５：００～１７：００

場　所：仙台国際ホテル　６Ｆ　楓の間

議　事

１．課題・問題点の抽出について

２．ガイドラインの作成方針について

３．ガイドライン目次（案）について

４．ガイドライン骨子（案）について

５．今後の進め方について

（※別紙－１　委員会状況写真）

○ 議事結果

１．課題・問題点の抽出について

平成１８年度の準備委員会（座談会）及び本検討会のワーキンググループから提出された、コンクリート構造物の設計・施工に関する実務上の、あるいは基準書等の問題や課題について、代表例として意見の多かった項目の概要が説明されました。

２．ガイドラインの作成方針について

抽出された課題･問題点を踏まえて､ガイドラインの作成方針について説明がされ、審議の結果了承されました。（※詳細については別紙－２参照）

３．ガイドライン目次（案）について

ガイドラインに記載する目次（案）について説明がされました。三浦委員長からは具体的に策定作業が進めば、構成等の見直しが必要となる場合もある旨の指摘がありました。

４．ガイドライン骨子（案）について

各ＷＧ（フレームワーク、ＬＣＣ・ＡＭ、設計、製造、施工、維持管理）の委員から担当する項目の掲載内容の骨子（案）について概要説明があり、審議の結果了承されました。

５．今後の進め方について

平成２０年度からガイドライン（素案）の策定作業に入り、９月開催予定の第３回委員会で意見聴取した結果とともに委員会に諮り、平成２１年１月末を目途にガイドライン（案）の策定を完了させるスケジュールが了承されました。


第2回　東北地方における
コンクリート構造物の耐久性向上検討委員会


第2回　東北地方における
コンクリート構造物の耐久性向上検討委員会

ガイドラインの作成方針について

これまで、準備委員会（座談会）及びWGを通じて、コンクリート構造物の設計・施工の実務、基準書の問題や課題について意見を収集してきた。この意見を総括すると、初期欠陥の発生処置や発生原因、経年劣化を抑制可能な構造細目に関するもの、寒中工事など工事時期、期間に起因するものが多く指摘されている。また、基準書は定量的な規格としては与えているものの、その根拠や活用にあっての留意点など解説が不十分なため、根本的な理解不足のまま現場で使用されている事例があることが分かった。さらにコンクリート構造物の耐久性を向上させるには、東北地方の気象・環境条件を考慮した設計・施工が不可欠である旨の指摘もあった。

したがって、以下の作成方針を基にガイドラインの策定を進めるものとする。

ガイドライン作成方針

１．位置付け
・耐久性向上の設計・施工・維持管理の実務が行える内容として、共通仕様書、設計・施工マニュアル［橋梁編］を補完するものと位置づける。

２．記載内容
・記載内容は共通仕様書を網羅する。

３．定量的な記載
・設計や変更設計手続きが定量的に実施可能であること。
・項目毎に根拠・主旨など解説を附し、考え方を定量的に示した実用書を目指す。

なお、ガイドラインの記載にあたっては、下記の重点内容を考慮したものとする。

① オールジャパンではなく、東北地方の気象・環境、材料・施工条件など、地域による特性を考慮した東北独自のガイドラインを作成する。
② 初期欠陥を無くすための、コンクリート打設時期、設計上、施工上、製造の課題克服
（過密鉄筋、配合やコンクリート材料、高炉セメント、温度ひびわれ、寒中コンクリートの施工等）
③ 経年劣化の原因として凍結融解、近海の塩害、凍結抑制剤散布による塩害、アルカリ骨材反応
④ 経年劣化を抑制する構造細目の設定と材料選定・採用基準
（防水層、止水、被覆鉄筋・鋼材の適用、締め固め容易な高流動コンクリート）
⑤ 品質確保と検査方法
⑥ LCC低減による維持管理システム